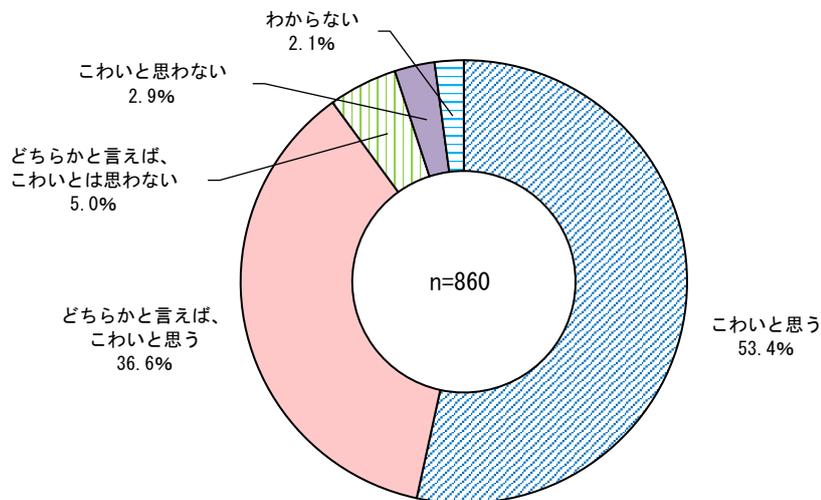


3 がん対策について

問1 あなたは、「がん」について、どのような印象を持っていますか。
次の中から1つだけお選びください。



【全体】

「こわいと思う」(53.4%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「どちらかと言えば、こわいと思う」(36.6%)、「どちらかと言えば、こわいとは思わない」(5.0%)の順となっている。

【圏域別】

「こわいと思う」については、道南連携地域(60.0%)が最も割合が高く、次いで道北連携地域(54.6%)となっている。「どちらかと言えば、こわいと思う」については、十勝連携地域(46.7%)が最も割合が高く、次いで釧路・根室連携地域(39.1%)となっている。

【人口規模別】

「こわいと思う」については、人口10万人未満の市(60.6%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(59.7%)となっている。「どちらかと言えば、こわいと思う」については、町村部(49.0%)が最も割合が高く、次いで札幌市(37.3%)となっている。

【性別】

「こわいと思う」については、男性49.7%、女性56.3%となっており、「どちらかと言えば、こわいと思う」については、男性38.6%、女性35.4%となっている。

【年代別】

「こわいと思う」については、18～29歳(67.5%)が最も割合が高く、次いで30～39歳(65.1%)となっている。「どちらかと言えば、こわいと思う」については、70歳以上(49.2%)が最も割合が高く、次いで60～69歳(42.0%)となっている。

【職種別】

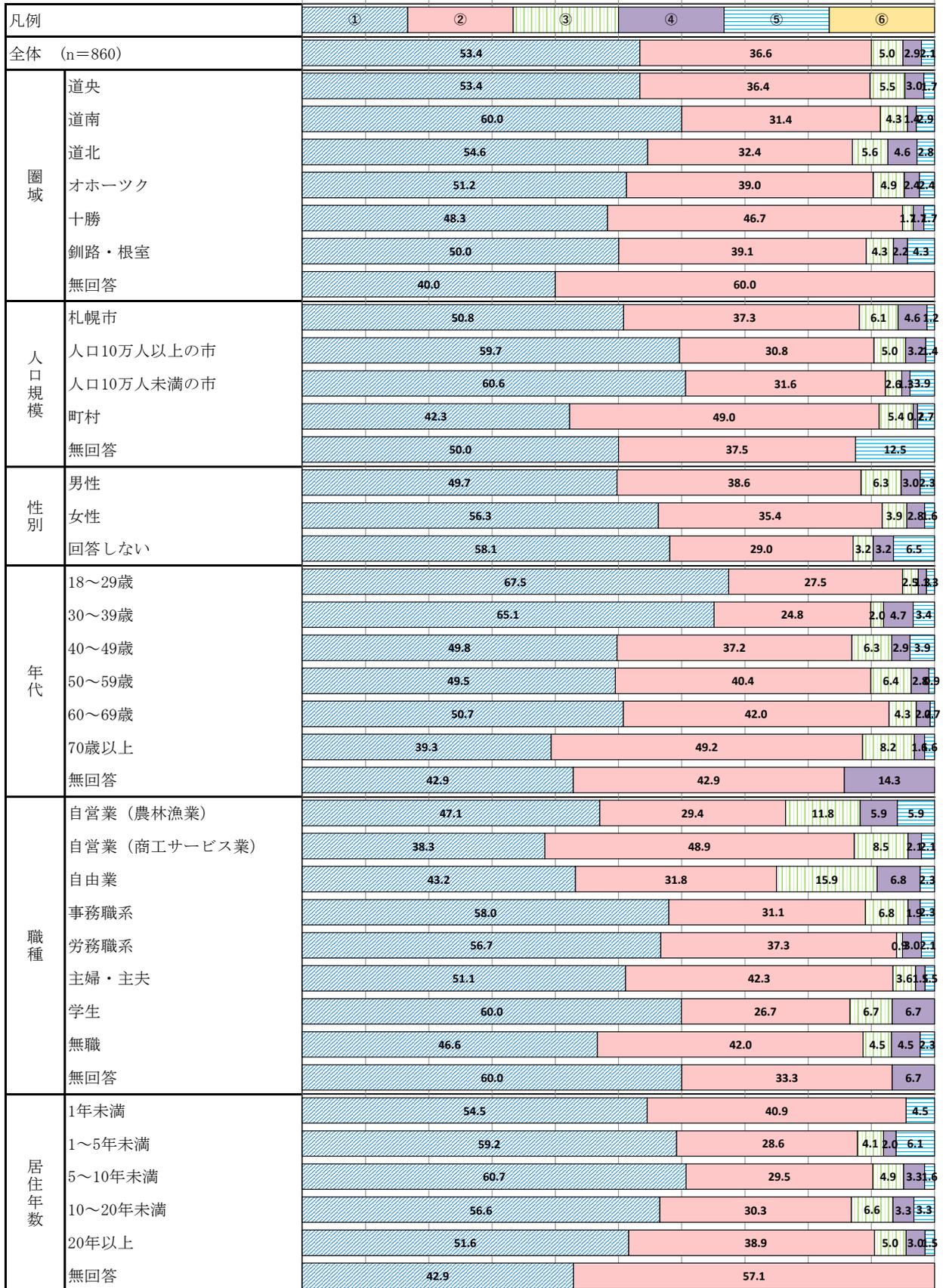
「こわいと思う」については、事務職系(58.0%)が最も割合が高く、次いで労務職系(56.7%)となっている。「どちらかと言えば、こわいと思う」については、自営業(商工サービス業)(48.9%)が最も割合が高く、次いで主婦・主夫(42.3%)となっている。

【居住年数別】

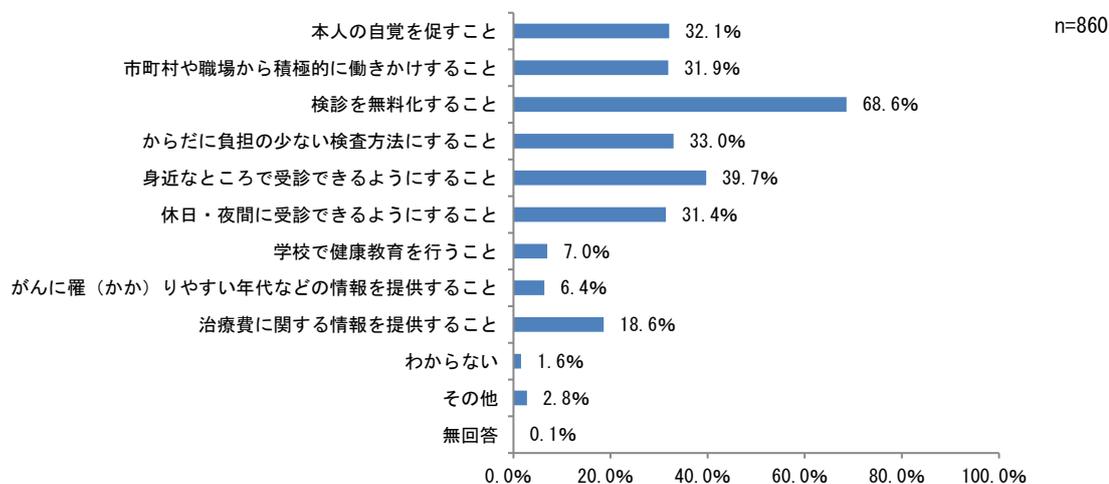
「こわいと思う」については、5～10年未満(60.7%)が最も割合が高く、次いで1～5年未満(59.2%)となっている。「どちらかと言えば、こわいと思う」については、1年未満(40.9%)が最も割合が高く、次いで20年以上(38.9%)となっている。

- ①こわいと思う ②どちらかと言えば、こわいと思う ③どちらかと言えば、こわいとは思わない
 ④こわいと思わない ⑤わからない ⑥無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問2 定期的ながん検診の実施により、がんを早期に発見し、治療に当たることはたいへん重要ですが、道内のがん検診の受診率は、全国平均と比べ低い傾向にあります。少しでも多くの方ががん検診を受けるためには、どのような対策が必要だと思いますか。次の中から3つまでお選びください。



【全体】

「検診を無料化すること」（68.6%）と答えた方の割合が最も高く、次いで「身近なところで受診できるようにすること」（39.7%）、「からだに負担の少ない検査方法にすること」（33.0%）の順となっている。

【圏域別】

「検診を無料化すること」については、道央広域連携地域（71.9%）が最も割合が高く、次いで道北連携地域（70.4%）となっている。「身近なところで受診できるようにすること」については、釧路・根室連携地域（41.3%）が最も割合が高く、次いで道央広域連携地域（40.8%）となっている。

【人口規模別】

「検診を無料化すること」については、札幌市（72.5%）が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市（68.4%）となっている。「身近なところで受診できるようにすること」については、人口10万人未満の市（47.7%）が最も割合が高く、次いで札幌市（41.9%）となっている。

【性別】

「検診を無料化すること」については、男性70.6%、女性66.4%となっており、「身近なところで受診できるようにすること」については、男性38.8%、女性39.3%となっている。

【年代別】

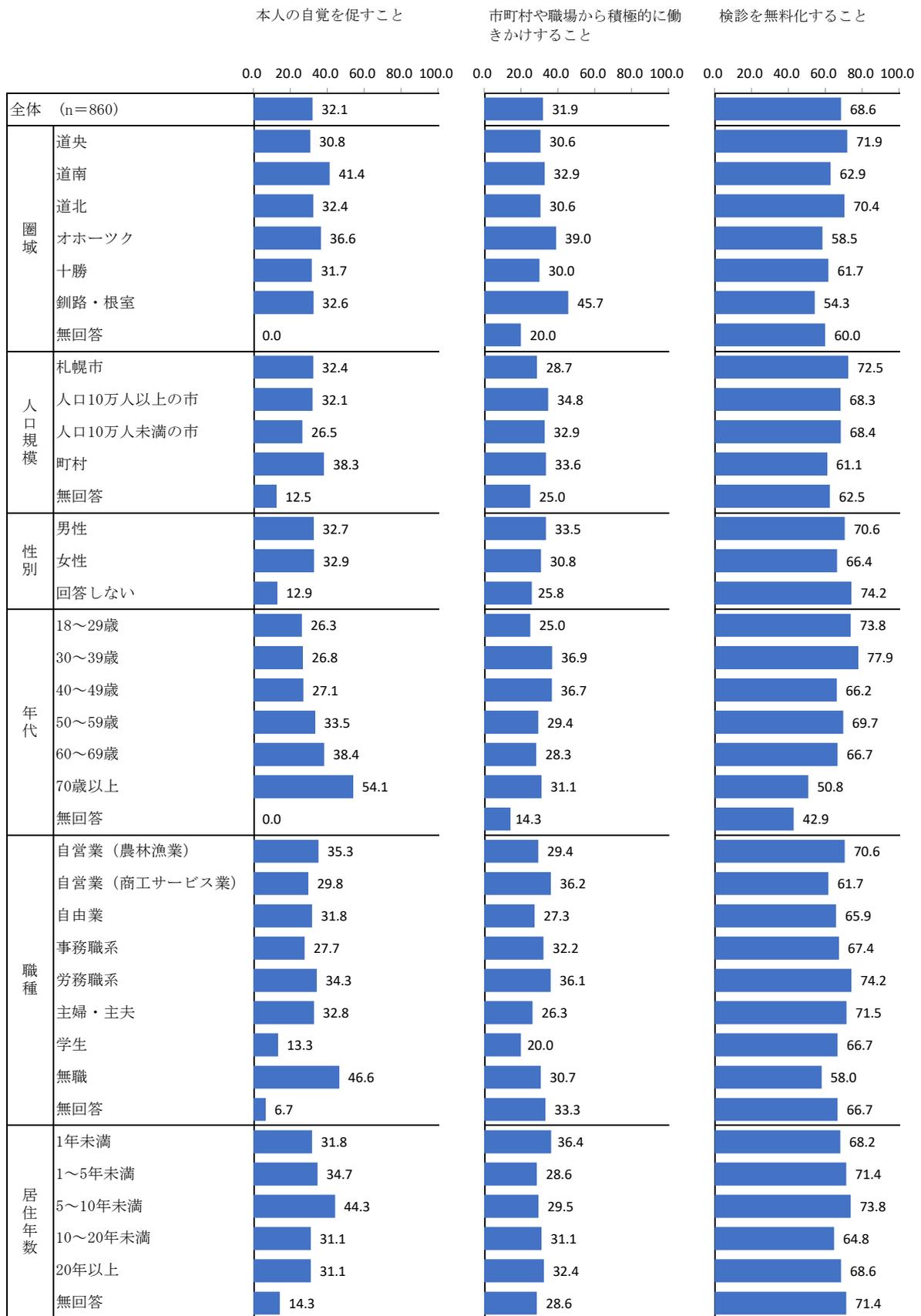
「検診を無料化すること」については、30～39歳（77.9%）が最も割合が高く、次いで18～29歳（73.8%）となっている。「身近なところで受診できるようにすること」については、70歳以上（50.8%）が最も割合が高く、次いで60～69歳（47.8%）となっている。

【職種別】

「検診を無料化すること」については、労務職系（74.2%）が最も割合が高く、次いで主婦・主夫（71.5%）となっている。「身近なところで受診できるようにすること」については、主婦・主夫（46.0%）が最も割合が高く、次いで無職（45.5%）となっている。

【居住年数別】

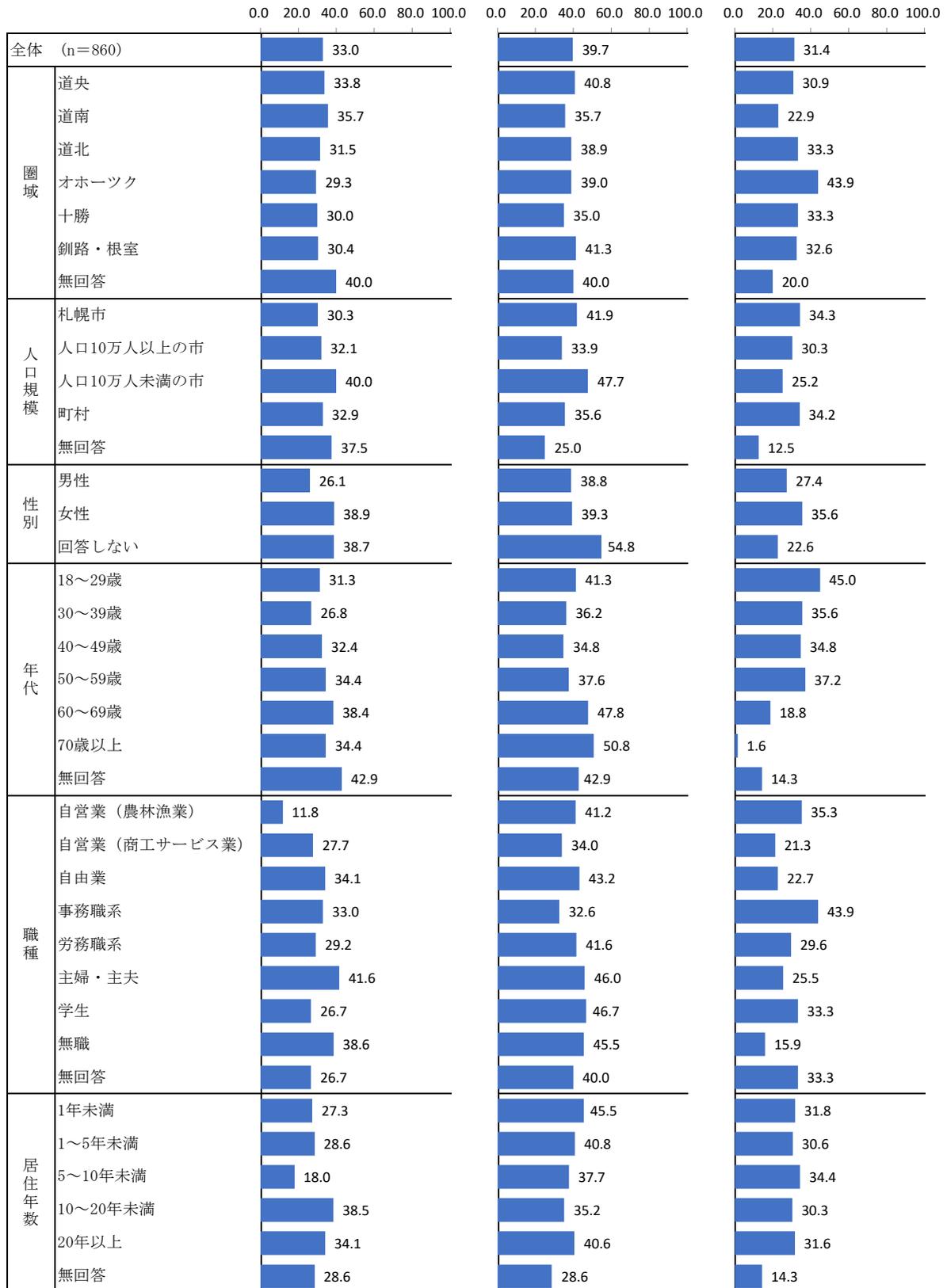
「検診を無料化すること」については、5～10年未満（73.8%）が最も割合が高く、次いで1～5年未満（71.4%）となっている。「身近なところで受診できるようにすること」については、1年未満（45.5%）が最も割合が高く、次いで1～5年未満（40.8%）となっている。



からだに負担の少ない検査方法
にすること

身近なところで受診できるよう
にすること

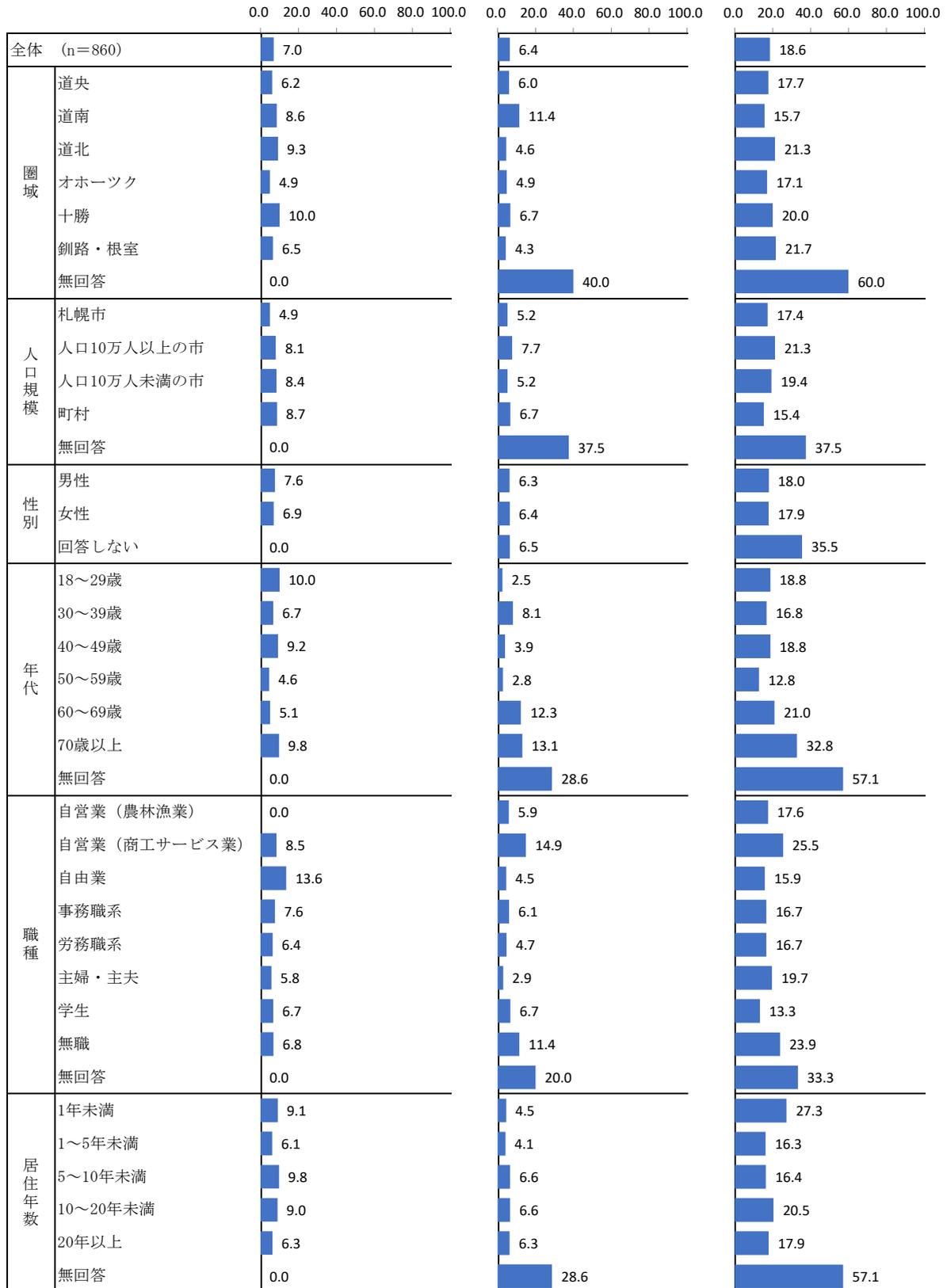
休日・夜間に受診できるよう
にすること



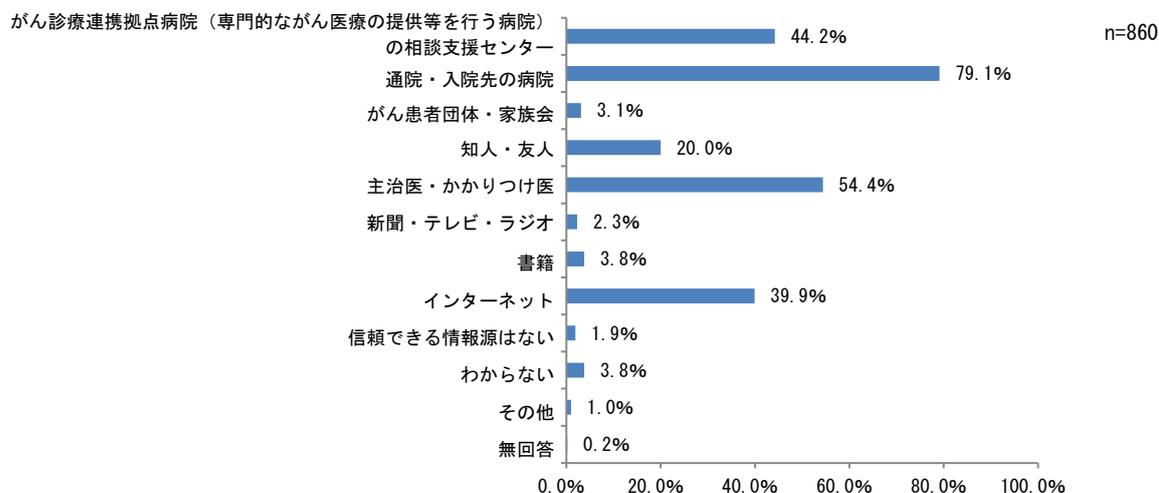
学校で健康教育を行うこと

がんに罹（かか）りやすい年代
などの情報を提供すること

治療費に関する情報を提供す
ること



問3 ご自身または家族ががん患者となった場合、どこに相談しますか。
あるいは、がんに関する情報をどこから入手しますか。
次の中から3つまでお選びください。



【全体】

「通院・入院先の病院」（79.1%）と答えた方の割合が最も高く、次いで「主治医・かかりつけ医」（54.4%）、「がん診療連携拠点病院（専門的ながん医療の提供等を行う病院）の相談支援センター」（44.2%）の順となっている。

【圏域別】

「通院・入院先の病院」については、十勝連携地域（88.3%）が最も割合が高く、次いでオホーツク連携地域（82.9%）となっている。「主治医・かかりつけ医」については、道南連携地域（65.7%）が最も割合が高く、次いでオホーツク連携地域（61.0%）となっている。

【人口規模別】

「通院・入院先の病院」については、町村部（83.9%）が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市（83.2%）となっている。「主治医・かかりつけ医」については、人口10万人以上の市（57.0%）が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市（56.1%）となっている。

【性別】

「通院・入院先の病院」については、男性79.2%、女性79.3%となっており、「主治医・かかりつけ医」については、男性52.0%、女性56.3%となっている。

【年代別】

「通院・入院先の病院」については、70歳以上（83.6%）が最も割合が高く、次いで40～49歳（81.2%）となっている。「主治医・かかりつけ医」については、70歳以上（73.8%）が最も割合が高く、次いで60～69歳（65.9%）となっている。

【職種別】

「通院・入院先の病院」については、事務職系（81.4%）が最も割合が高く、次いで労務職系（79.0%）となっている。「主治医・かかりつけ医」については、主婦・主夫（60.6%）が最も割合が高く、次いで無職（56.8%）となっている。

【居住年数別】

「通院・入院先の病院」については、5～10年未満（86.9%）が最も割合が高く、次いで20年以上（79.1%）となっている。「主治医・かかりつけ医」については、5～10年未満（60.7%）が最も割合が高く、次いで20年以上（55.1%）となっている。

がん診療連携拠点病院（専門的ながん医療の提供等を行う病院）の相談支援センター

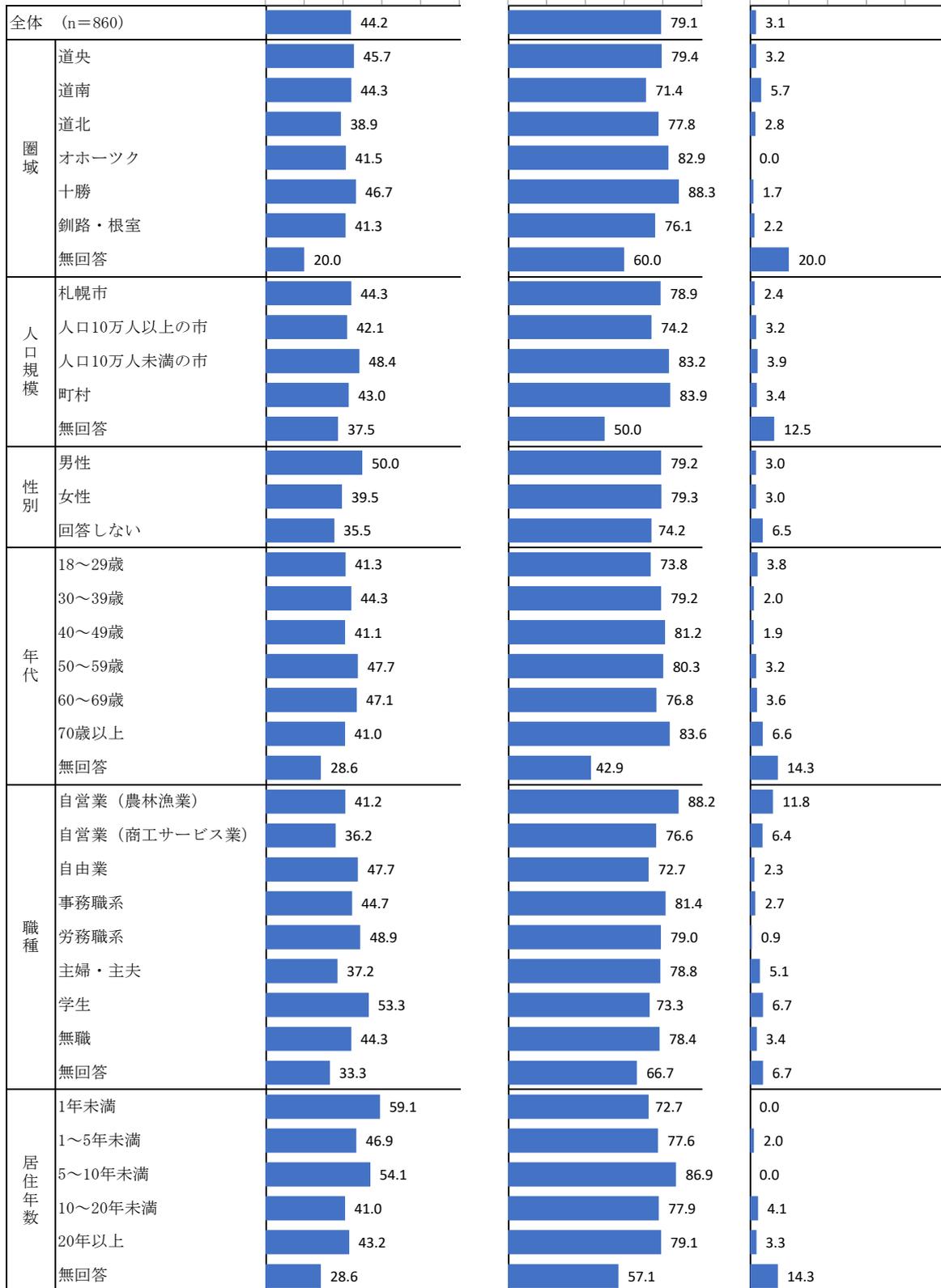
通院・入院先の病院

がん患者団体・家族会

0.0 20.0 40.0 60.0 80.0 100.0

0.0 20.0 40.0 60.0 80.0 100.0

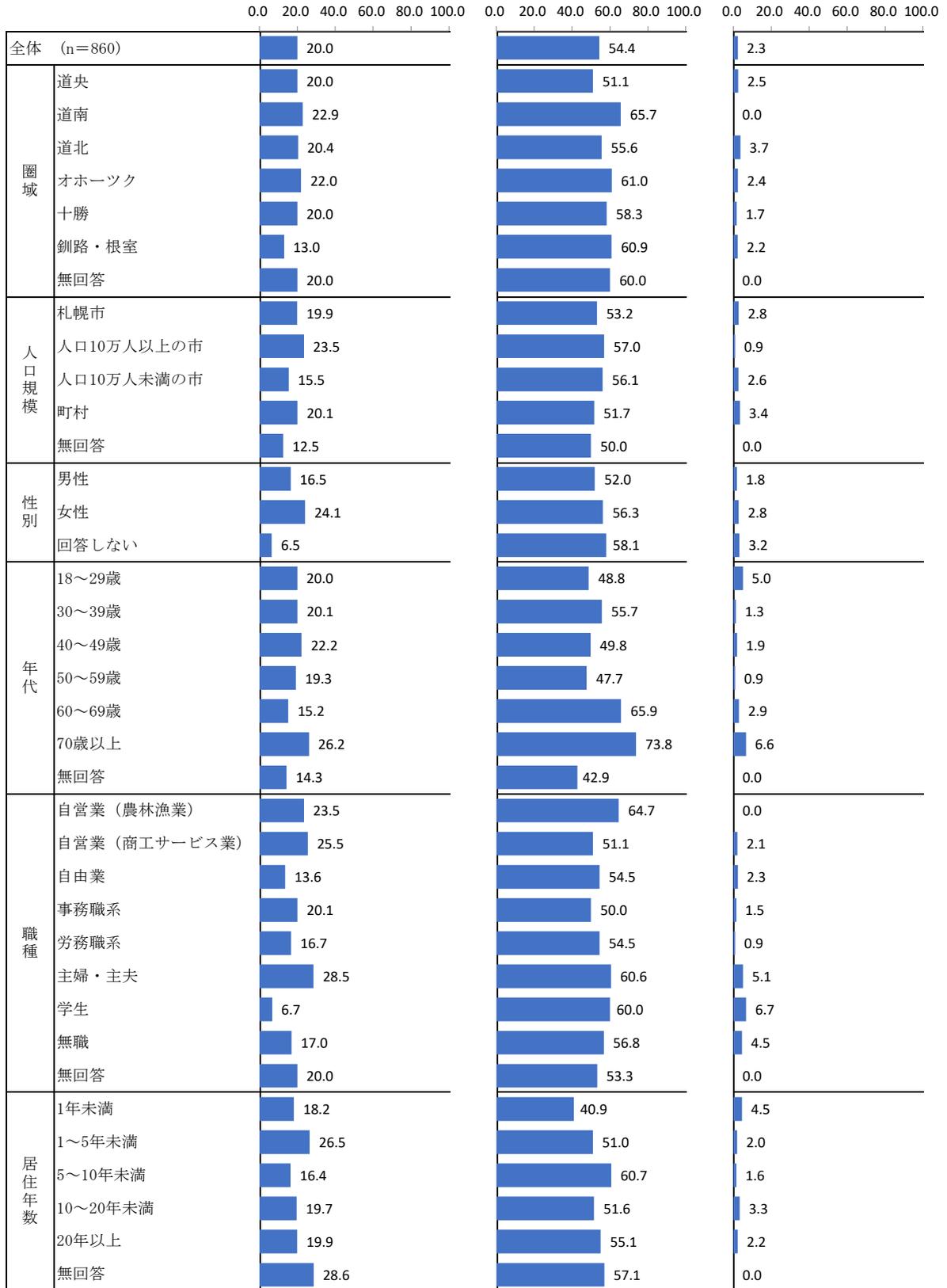
0.0 20.0 40.0 60.0 80.0 100.0

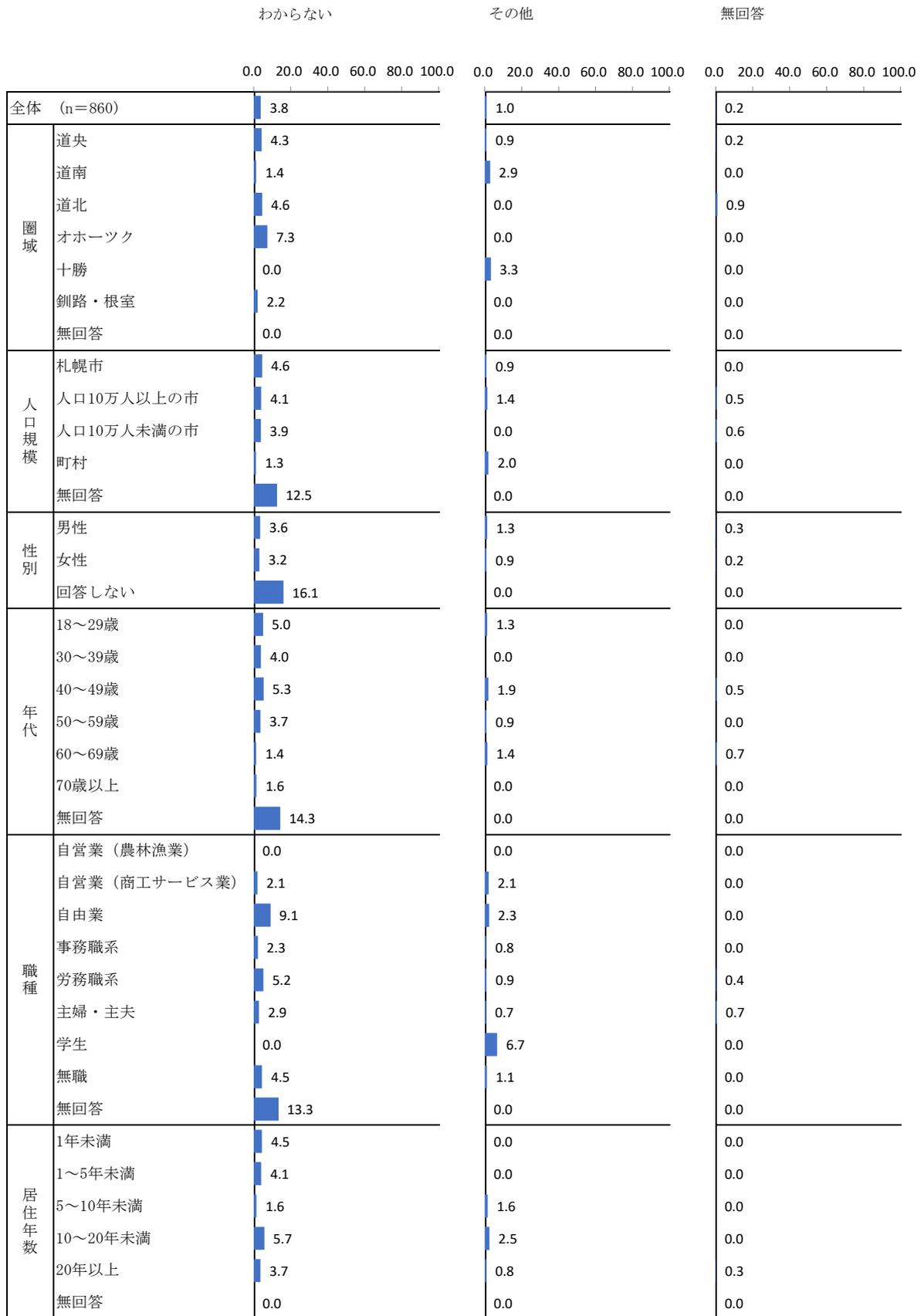


知人・友人

主治医・かかりつけ医

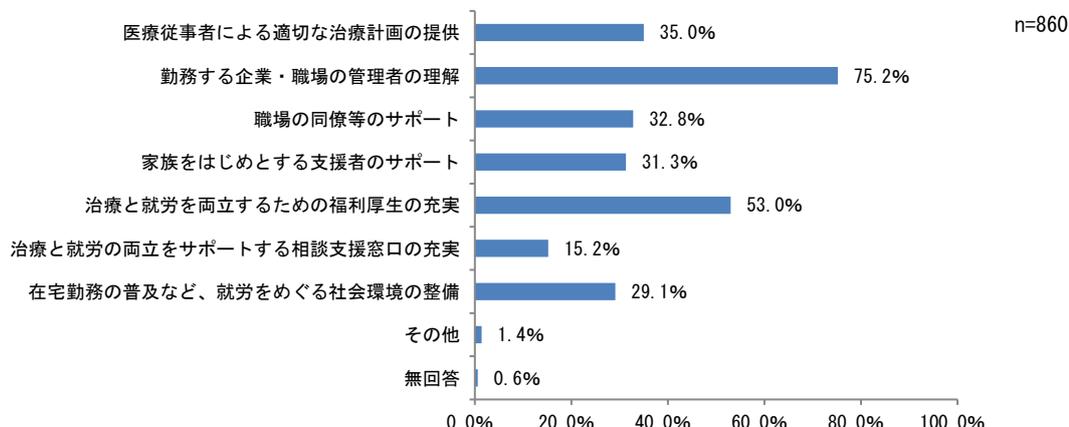
新聞・テレビ・ラジオ





問4 がんになっても働き続けられることができる社会づくりのため、今後、どのようなことが必要だと思いますか。

次の中から3つまでお選びください。



【全体】

「勤務する企業・職場の管理者の理解」(75.2%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「治療と就労を両立するための福利厚生 of 充実」(53.0%)、「医療従事者による適切な治療計画の提供」(35.0%)の順となっている。

【圏域別】

「勤務する企業・職場の管理者の理解」については、道央広域連携地域(78.5%)が最も割合が高く、次いでオホーツク連携地域(75.6%)となっている。「治療と就労を両立するための福利厚生 of 充実」については、オホーツク連携地域(73.2%)が最も割合が高く、次いで釧路・根室連携地域(56.5%)となっている。

【人口規模別】

「勤務する企業・職場の管理者の理解」については、札幌市(77.7%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市(75.5%)となっている。「治療と就労を両立するための福利厚生 of 充実」については、人口10万人以上の市(56.1%)が最も割合が高く、次いで札幌市(53.8%)となっている。

【性別】

「勤務する企業・職場の管理者の理解」については、男性69.3%、女性80.7%となっており、「治療と就労を両立するための福利厚生 of 充実」については、男性48.2%、女性57.2%となっている。

【年代別】

「勤務する企業・職場の管理者の理解」については、30~39歳(78.5%)が最も割合が高く、次いで50~59歳(78.4%)となっている。「治療と就労を両立するための福利厚生 of 充実」については、30~39歳(60.4%)が最も割合が高く、次いで40~49歳(58.0%)となっている。

【職種別】

「勤務する企業・職場の管理者の理解」については、主婦・主夫(79.6%)が最も割合が高く、次いで事務職系(79.2%)となっている。「治療と就労を両立するための福利厚生 of 充実」については、事務職系(59.8%)が最も割合が高く、次いで自営業(商工サービス業)(55.3%)となっている。

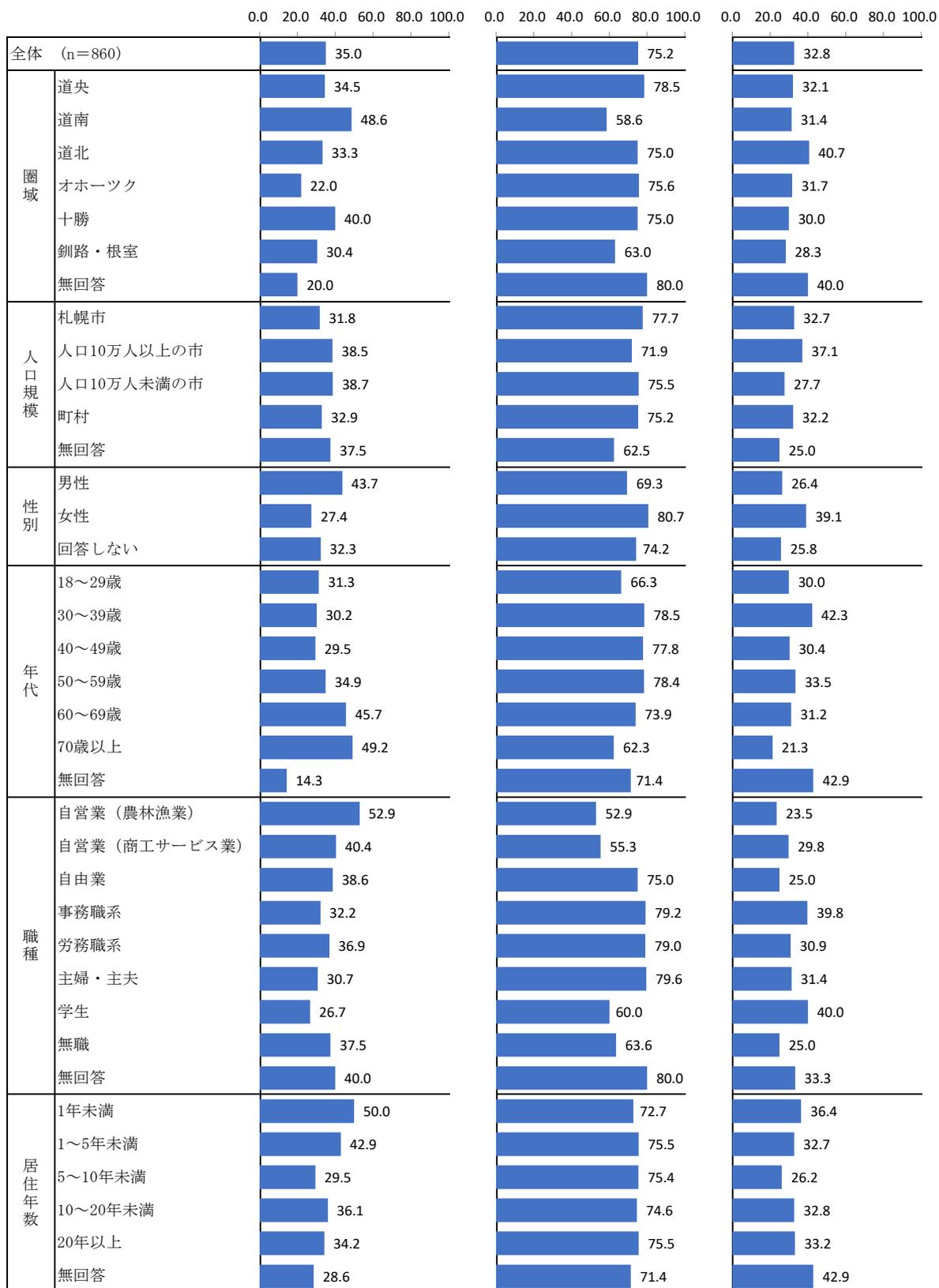
【居住年数別】

「勤務する企業・職場の管理者の理解」については、1~5年未満と20年以上(75.5%)が同率で最も割合が高く、次いで5~10年未満(75.4%)となっている。「治療と就労を両立するための福利厚生 of 充実」については、1~5年未満(61.2%)が最も割合が高く、次いで10~20年未満(57.4%)となっている。

医療従事者による適切な治療
計画の提供

勤務する企業・職場の管理者
の理解

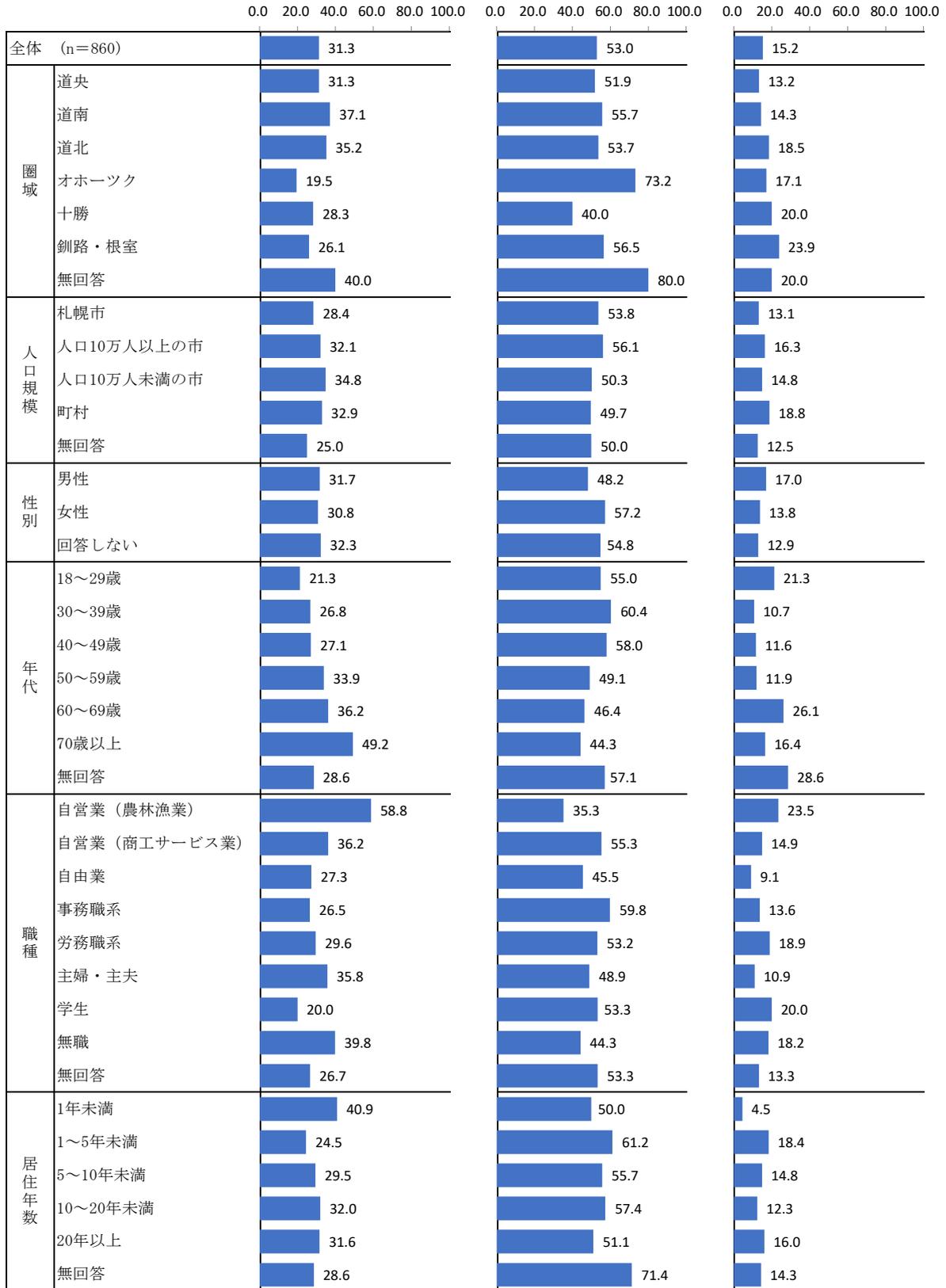
職場の同僚等のサポート



家族をはじめとする支援者のサポート

治療と就労を両立するための福利厚生の充実

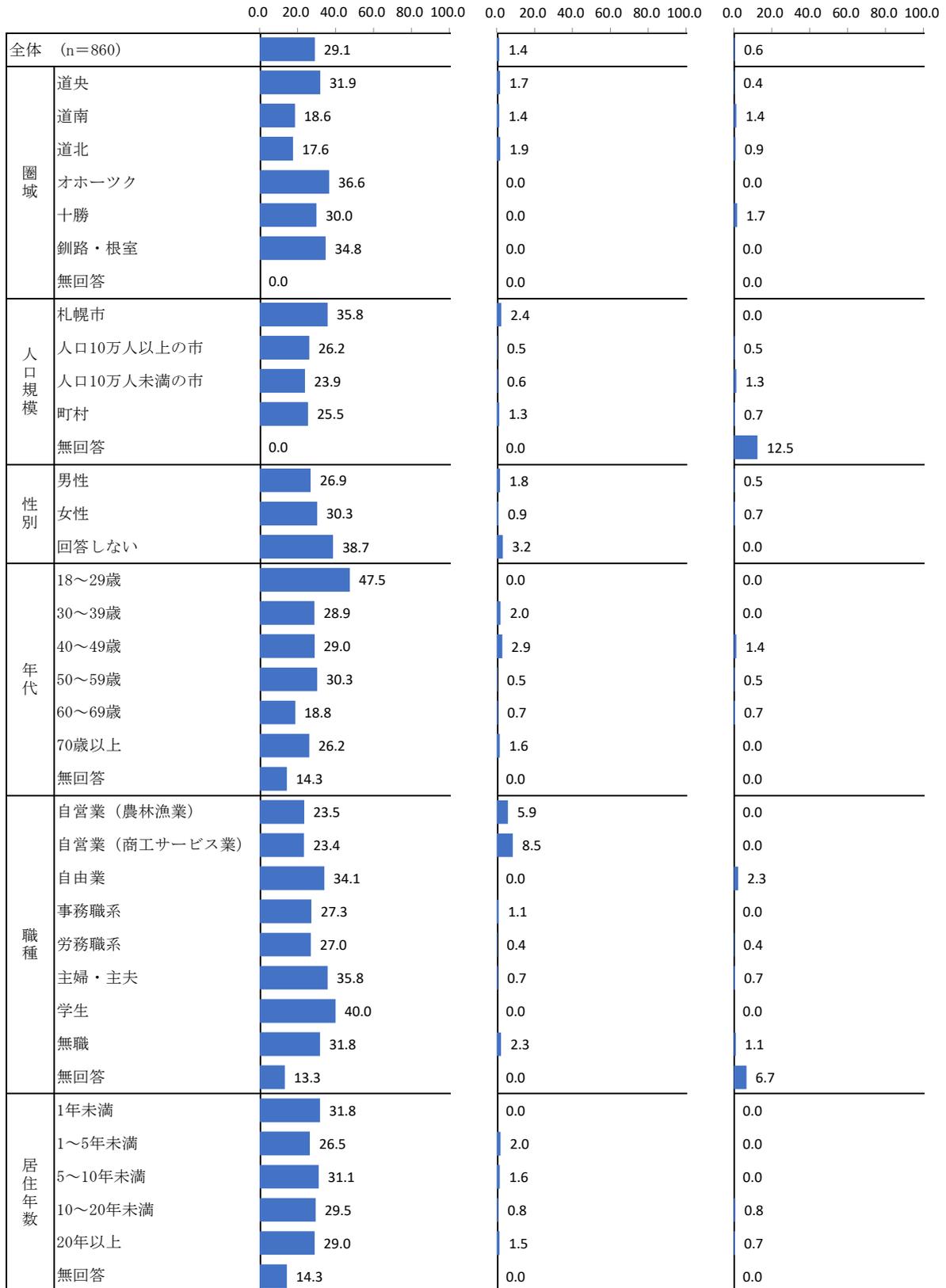
治療と就労の両立をサポートする相談支援窓口の充実



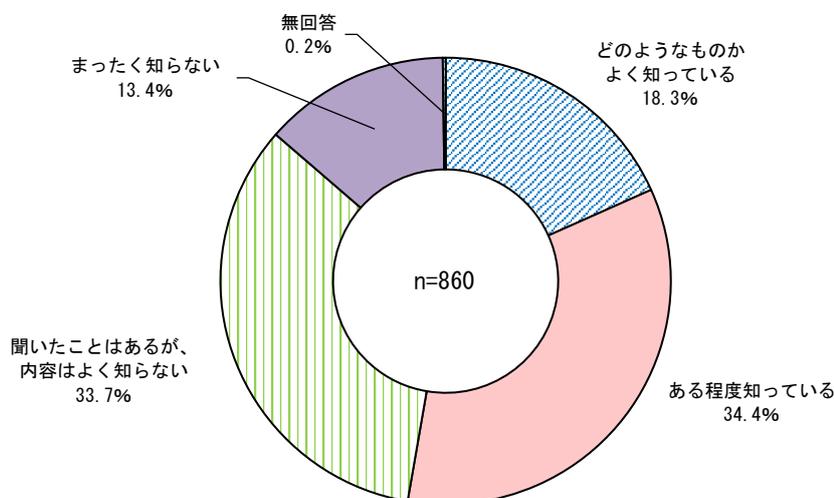
在宅勤務の普及など、就労を
めぐる社会環境の整備

その他

無回答



問5 がん患者が質の高い療養生活を送るため、がんと診断されてからの「緩和ケア」に取り組む医療機関や施設が増えていますが、「緩和ケア」について、あなたはどの程度ご存じですか。次の中から一つだけお選びください。



【全体】

「ある程度知っている」(34.4%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」(33.7%)、「どのようなものかよく知っている」(18.3%)の順となっている。

【圏域別】

「ある程度知っている」については、オホーツク連携地域(36.6%)が最も割合が高く、次いで道央広域連携地域(36.4%)となっている。「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」については、オホーツク連携地域(41.5%)が最も割合が高く、次いで道北連携地域(40.7%)となっている。

【人口規模別】

「ある程度知っている」については、札幌市(37.3%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市(36.1%)となっている。「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」については、町村部(42.3%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市(34.2%)となっている。

【性別】

「ある程度知っている」については、男性28.4%、女性40.0%となっており、「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」については、男性35.0%、女性31.5%となっている。

【年代別】

「ある程度知っている」については、50～59歳(38.1%)が最も割合が高く、次いで40～49歳(37.2%)となっている。「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」については、70歳以上(47.5%)が最も割合が高く、次いで60～69歳(35.5%)となっている。

【職種別】

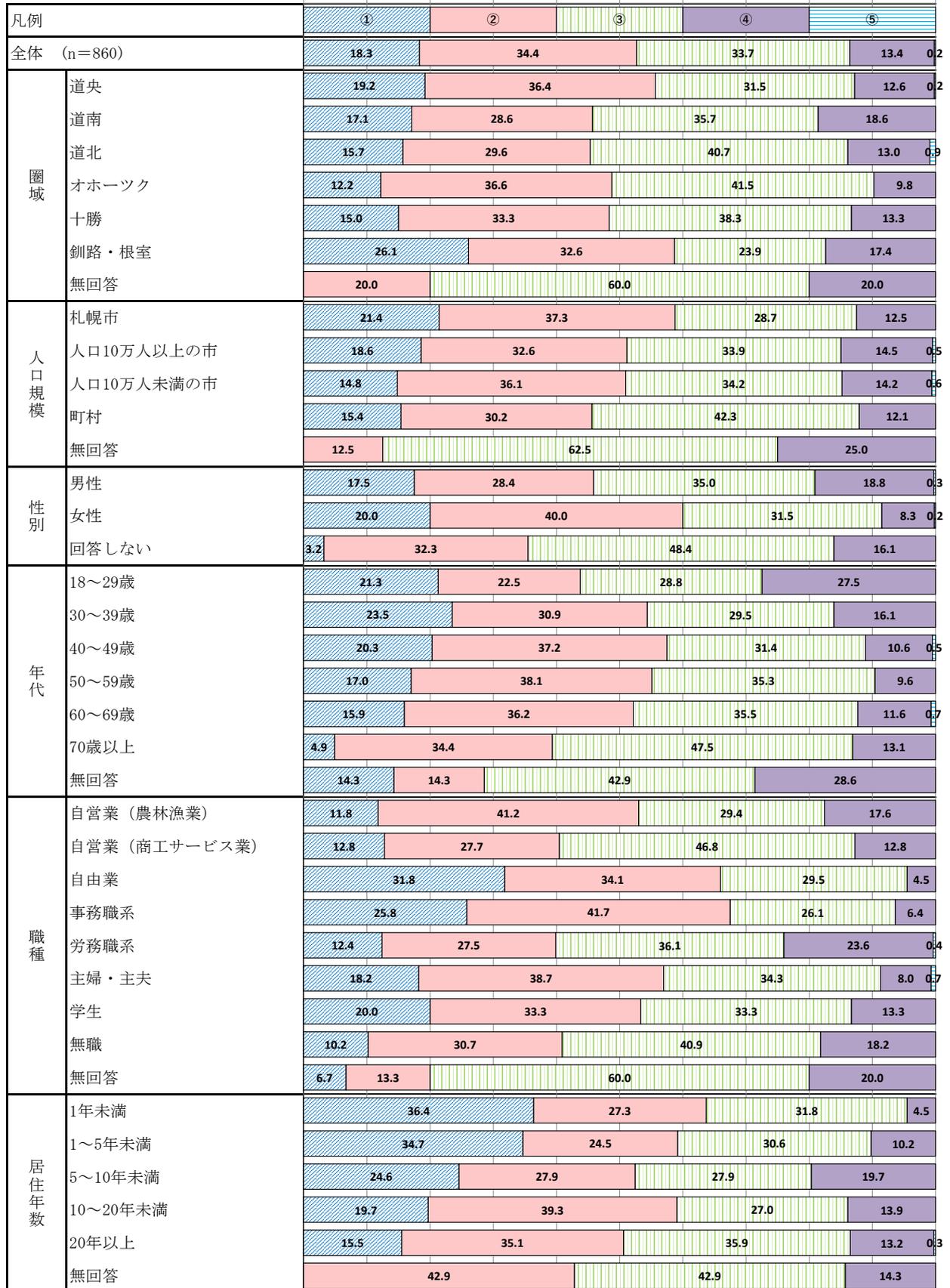
「ある程度知っている」については、事務職系(41.7%)が最も割合が高く、次いで主婦・主夫(38.7%)となっている。「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」については、自営業(商工サービス業)(46.8%)が最も割合が高く、次いで無職(40.9%)となっている。

【居住年数別】

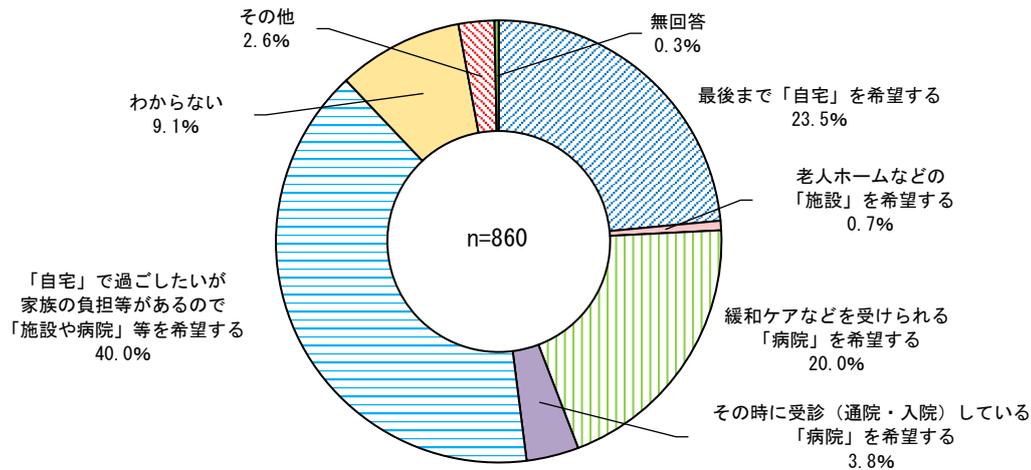
「ある程度知っている」については、10～20年未満(39.3%)が最も割合が高く、次いで20年以上(35.1%)となっている。「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」については、20年以上(35.9%)が最も割合が高く、次いで1年未満(31.8%)となっている。

①どのようなものかよく知っている ②ある程度知っている
 ③聞いたことはあるが、内容はよく知らない ④まったく知らない ⑤無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問6 仮にあなたががん患者となり、余命6か月と宣告された場合、療養生活の場として希望するのはどこですか。次の中から1つだけお選びください。



【全体】

「「自宅」で過ごしたいが家族の負担等があるので「施設や病院」等を希望する」（40.0%）と答えられた方の割合が最も高く、次いで「最後まで「自宅」を希望する」（23.5%）、「緩和ケアなどを受けられる「病院」を希望する」（20.0%）の順となっている。

【圏域別】

「「自宅」で過ごしたいが家族の負担等があるので「施設や病院」等を希望する」については、釧路・根室連携地域（50.0%）が最も割合が高く、次いで道央広域連携地域（40.6%）となっている。「最後まで「自宅」を希望する」については、オホーツク連携地域（29.3%）が最も割合が高く、次いで道央広域連携地域（24.0%）となっている。

【人口規模別】

「「自宅」で過ごしたいが家族の負担等があるので「施設や病院」等を希望する」については、札幌市（41.3%）が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市（40.0%）となっている。「最後まで「自宅」を希望する」については、町村部（27.5%）が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市（25.8%）となっている。

【性別】

「「自宅」で過ごしたいが家族の負担等があるので「施設や病院」等を希望する」については、男性40.9%、女性39.5%となっており、「最後まで「自宅」を希望する」については、男性27.4%、女性19.3%となっている。

【年代別】

「「自宅」で過ごしたいが家族の負担等があるので「施設や病院」等を希望する」については、70歳以上（47.5%）が最も割合が高く、次いで40～49歳（43.5%）となっている。「最後まで「自宅」を希望する」については、18～29歳（52.5%）が最も割合が高く、次いで30～39歳（27.5%）となっている。

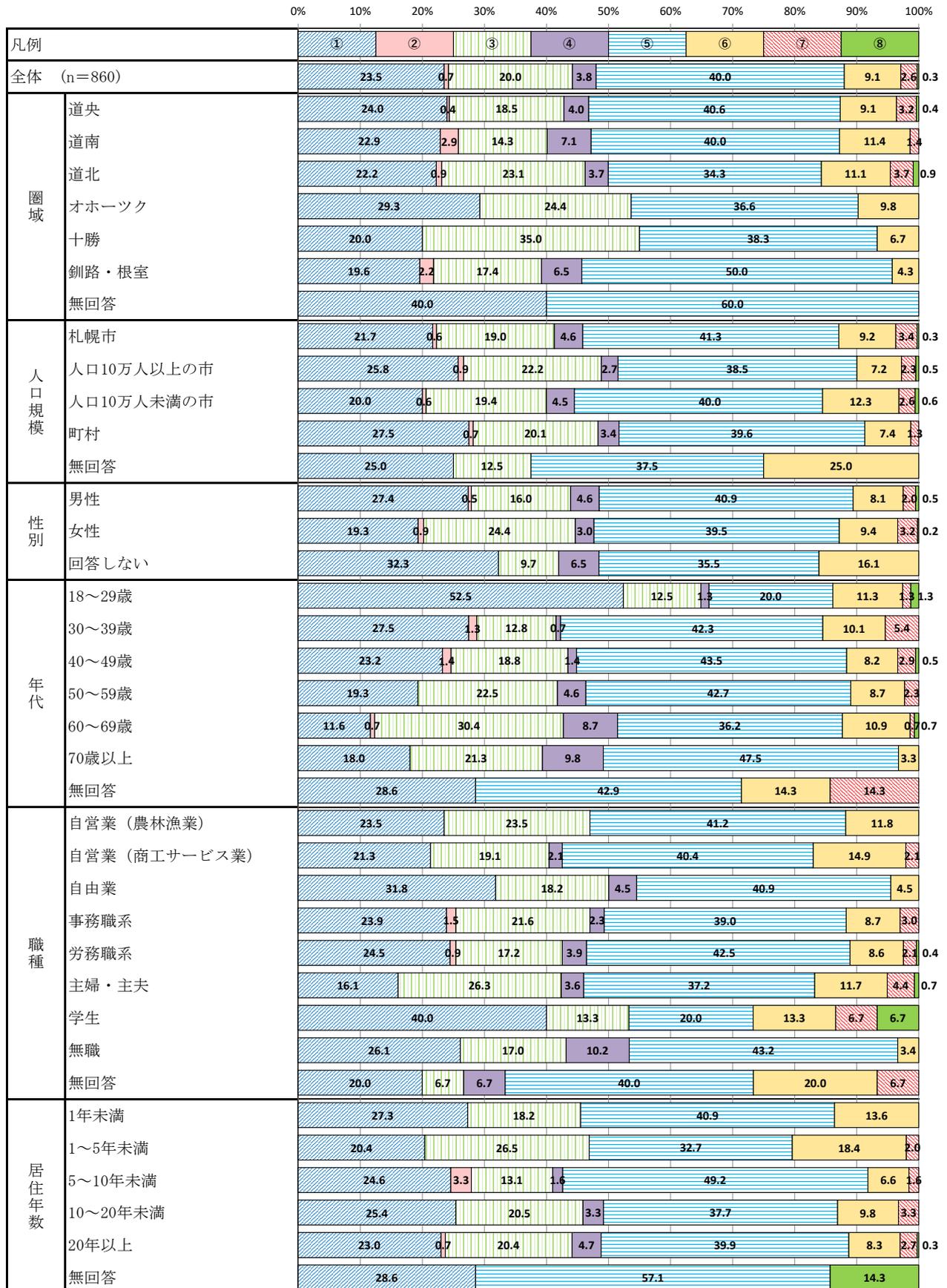
【職種別】

「「自宅」で過ごしたいが家族の負担等があるので「施設や病院」等を希望する」については、無職（43.2%）が最も割合が高く、次いで労務職系（42.5%）となっている。「最後まで「自宅」を希望する」については、自由業（31.8%）が最も割合が高く、次いで無職（26.1%）となっている。

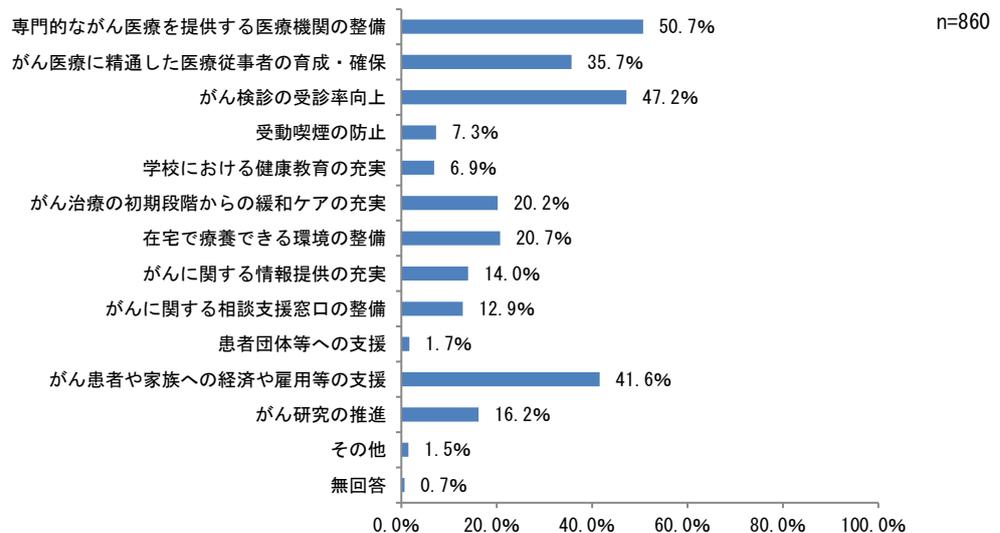
【居住年数別】

「「自宅」で過ごしたいが家族の負担等があるので「施設や病院」等を希望する」については、5～10年未満（49.2%）が最も割合が高く、次いで1年未満（40.9%）となっている。「最後まで「自宅」を希望する」については、1年未満（27.3%）が最も割合が高く、次いで10～20年未満（25.4%）となっている。

- ①最後まで「自宅」を希望する
 ②老人ホームなどの「施設」を希望する
 ③緩和ケアなどを受けられる「病院」を希望する
 ④その時に受診（通院・入院）している「病院」を希望する
 ⑤「自宅」で過ごしたいが家族の負担等があるので「施設や病院」等を希望する
 ⑥わからない
 ⑦その他
 ⑧無回答



問7 がん対策を進める上で、今後、どのような取組が特に重要だと思いますか。
次の中から3つまでお選びください。



【全体】

「専門的ながん医療を提供する医療機関の整備」(50.7%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「がん検診の受診率向上」(47.2%)、「がん患者や家族への経済や雇用等の支援」(41.6%)の順となっている。

【圏域別】

「専門的ながん医療を提供する医療機関の整備」については、釧路・根室連携地域(54.3%)が最も割合が高く、次いでオホーツク連携地域(53.7%)となっている。「がん検診の受診率向上」については、十勝連携地域(53.3%)が最も割合が高く、次いで道央広域連携地域(49.2%)となっている。

【人口規模別】

「専門的ながん医療を提供する医療機関の整備」については、人口10万人以上の市(51.6%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市(51.0%)となっている。「がん検診の受診率向上」については、札幌市(52.0%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市(47.1%)となっている。

【性別】

「専門的ながん医療を提供する医療機関の整備」については、男性53.3%、女性47.6%となっており、「がん検診の受診率向上」については、男性49.5%、女性45.7%となっている。

【年代別】

「専門的ながん医療を提供する医療機関の整備」については、30～39歳(58.4%)が最も割合が高く、次いで60～69歳(50.7%)となっている。「がん検診の受診率向上」については、18～29歳(63.8%)が最も割合が高く、次いで30～39歳(51.7%)となっている。

【職種別】

「専門的ながん医療を提供する医療機関の整備」については、事務職系(55.7%)が最も割合が高く、次いで労務職系(51.1%)となっている。「がん検診の受診率向上」については、労務職系(51.9%)が最も割合が高く、次いで主婦・主夫(46.7%)となっている。

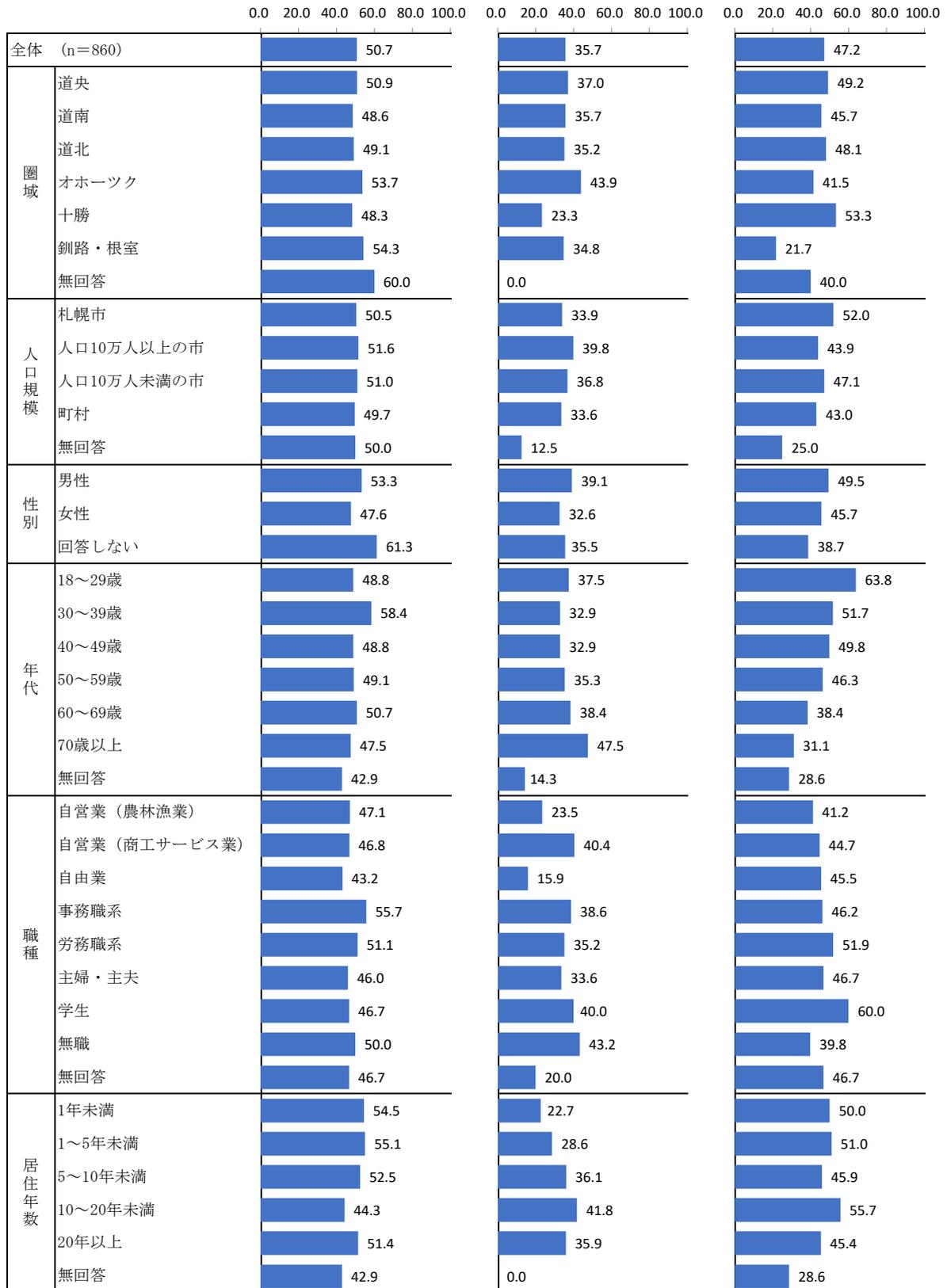
【居住年数別】

「専門的ながん医療を提供する医療機関の整備」については、1～5年未満(55.1%)が最も割合が高く、次いで1年未満(54.5%)となっている。「がん検診の受診率向上」については、10～20年未満(55.7%)が最も割合が高く、次いで1～5年未満(51.0%)となっている。

専門的ながん医療を提供する
医療機関の整備

がん医療に精通した医療従事
者の育成・確保

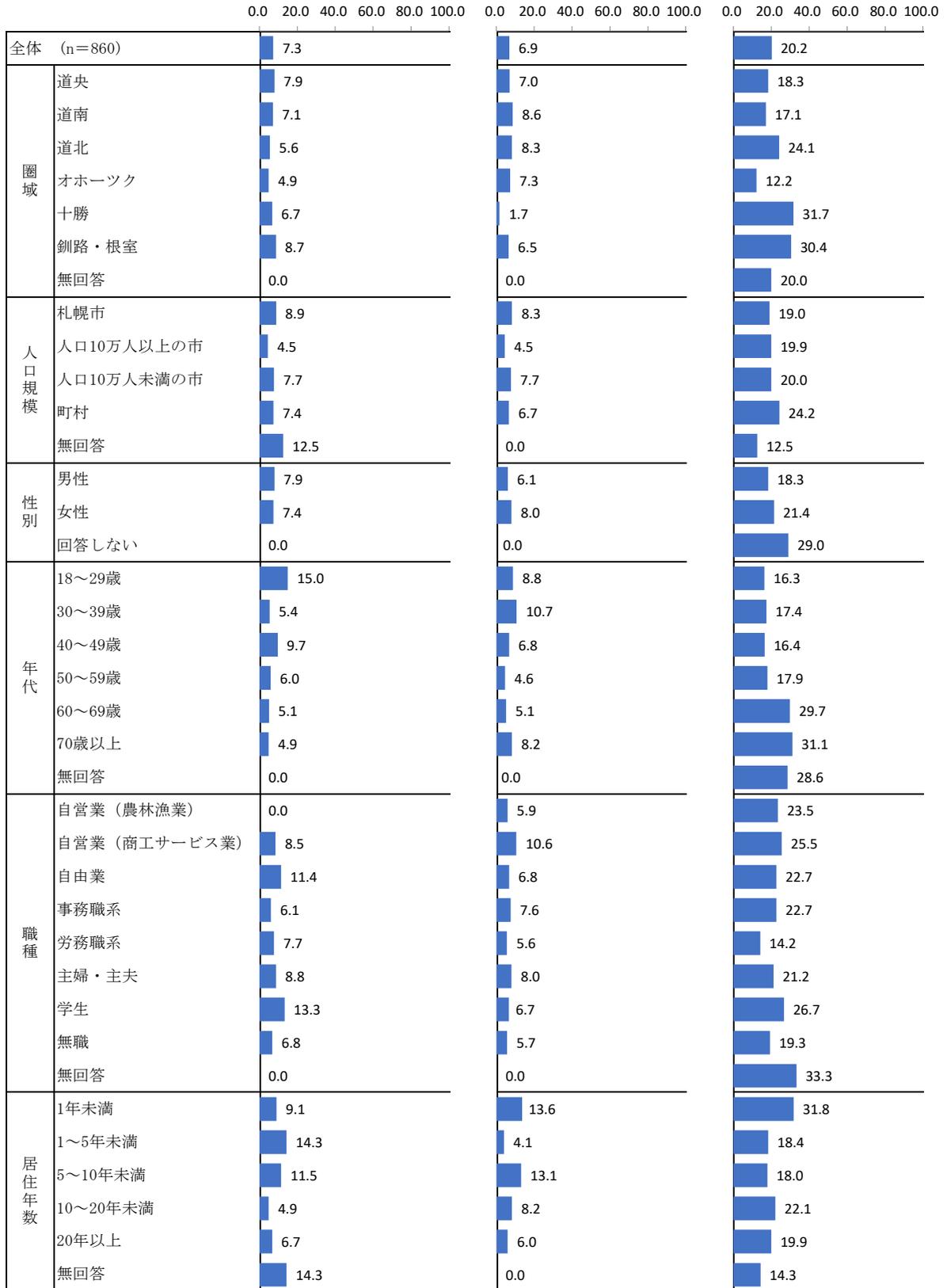
がん検診の受診率向上



受動喫煙の防止

学校における健康教育の充実

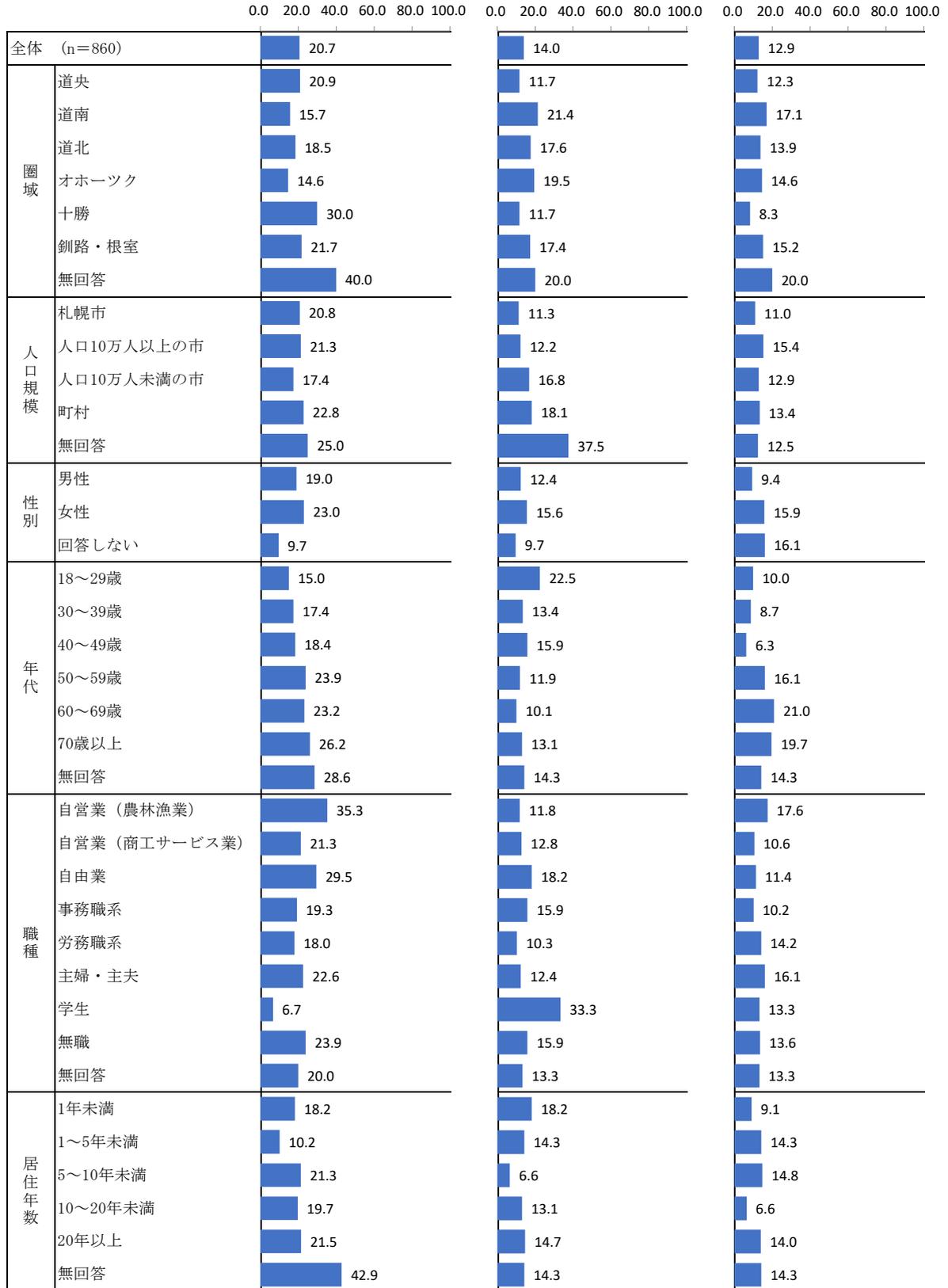
がん治療の初期段階からの緩和ケアの充実



在宅で療養できる環境の整備

がんに関する情報提供の充実

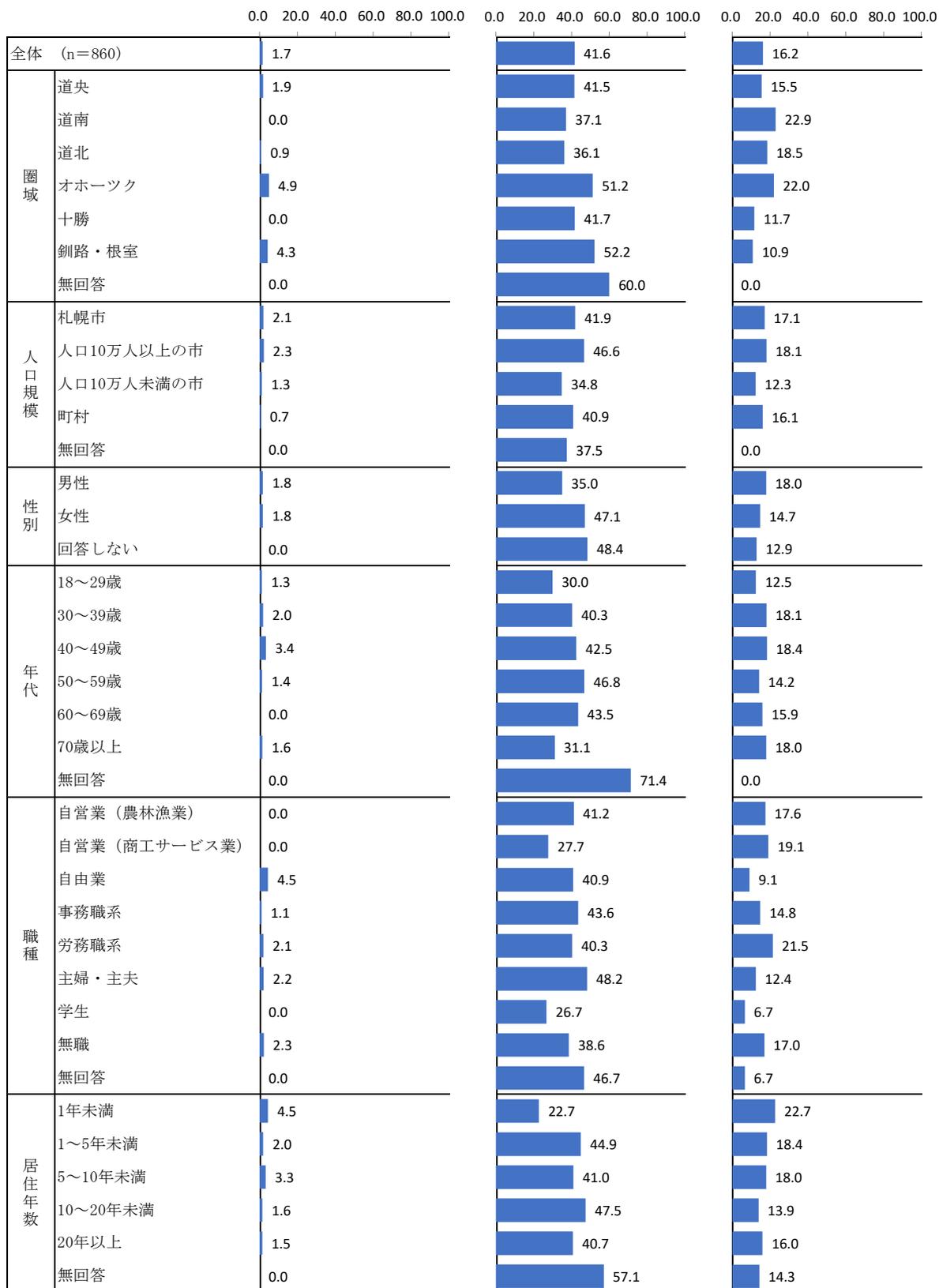
がんに関する相談支援窓口の整備



患者団体等への支援

がん患者や家族への経済や雇用等の支援

がん研究の推進



その他

無回答

0.0 20.0 40.0 60.0 80.0 100.0 0.0 20.0 40.0 60.0 80.0 100.0

全体 (n=860)	1.5	0.7	
圏域	道央	1.9	0.6
	道南	1.4	1.4
	道北	0.9	1.9
	オホーツク	0.0	0.0
	十勝	0.0	0.0
	釧路・根室	2.2	0.0
	無回答	0.0	0.0
	人口規模	札幌市	2.1
人口10万人以上の市		0.5	0.5
人口10万人未満の市		1.3	1.9
町村		2.0	0.7
無回答		0.0	12.5
性別	男性	1.3	0.5
	女性	1.6	0.9
	回答しない	3.2	0.0
年代	18～29歳	1.3	0.0
	30～39歳	0.7	0.0
	40～49歳	3.9	1.4
	50～59歳	1.4	0.5
	60～69歳	0.0	1.4
	70歳以上	0.0	0.0
	無回答	0.0	0.0
職種	自営業（農林漁業）	5.9	0.0
	自営業（商工サービス業）	2.1	2.1
	自由業	4.5	2.3
	事務職系	1.9	0.0
	労務職系	0.9	0.4
	主婦・主夫	0.7	1.5
	学生	0.0	0.0
	無職	0.0	1.1
	無回答	6.7	0.0
居住年数	1年未満	0.0	0.0
	1～5年未満	4.1	0.0
	5～10年未満	1.6	0.0
	10～20年未満	0.8	1.6
	20年以上	1.5	0.7
	無回答	0.0	0.0

「がん対策について」の調査を終えて

道民の「がん」に対する印象を見ると、「こわい」と思っている方と「どちらかといえばこわいと思う方」をあわせて90.0%となっており、依然として「がん」は道民の皆様にとって大きな脅威であることが伺える。

また、がんになっても働き続けられることができる社会づくりのための必要なことについては、「勤務する企業・職場の管理者の理解」が前回調査同様に最も多く75.2%（H28:73.7%）、次いで「治療と就労を両立するための福利厚生充実」が53.0%（H28:52.4%）となっており、前回とほぼ同様の結果となった。

このほか、がん対策を進める上で特に重要なことに対する設問では、「専門的ながん医療を提供する医療機関の整備」が前回同様に最も多く 50.7%（H28:50.9%）、次いで「がん検診の受診率向上」となっており、前回より回答割合が上昇（44.7%→47.2%）している。

道としては、今回の調査結果を踏まえ、令和6年度を始期とする新たな「北海道がん対策推進計画」（計画期間：6年間）の策定を進め、道のがん対策を一層推進する。

（保健福祉部健康安全局地域保健課）